

＜今日の説教のポイント マルコによる福音書 10 章 35～45 節＞

①直前で主イエスは十字架と復活を三度も予告されたにもかかわらず…

主イエスの側近中の側近の座を、自分たち兄弟で専有しようとする傲慢な思い。しかしそれは、ヤコブとヨハネだけの思いではありませんでした。「ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた」(41 節) と記されていることから、他の弟子たちも同じような思いを抱いていたことが明らかになります。露となる人間の罪。

②「多くの人の身代金として自分の命を献げるために来た」(45 節)

イエス・キリストの十字架、それを主イエスは「多くの人の身代金」と表現しておられます。身代金とは、他人を救うために支払われるお金です。主イエスは十字架の上で貴い血を流すという代価を支払うことにより、罪の奴隷状態の中にいた私たちを解放し、自由な者へと買い戻してくださいました。この贖罪の業を成し遂げるため、主イエスは父なる神の御許を離れ、地上に来てくださったのです。まさに「仕えられるため」ではなく、「仕えるため」に、この世へ来てくださったのです。

③神と人に仕える「サーバント・リーダー」として

私が奉職する青山学院は、今から 144 年前、アメリカのメソジスト監督教会から派遣されたスクーンメーカー宣教師を始め、3 人の宣教師たちによってその礎が築かれました。そして学院の創立 150 周年に向けて、「サーバント・リーダーの育成」を目標として掲げています。「サーバント・リーダー」とは、他者に仕えるという姿勢で人を導くリーダーのことを指しています。そしてその模範は、他でもないイエス・キリストにあるのです。あの「キリスト讃歌」(フィリピ 2:6～11)にも歌われているように、神の独り子である主イエスは、私たち人間と同じ姿をとってこの地上にお生まれくださいました。そして十字架の死に至るまで、父なる神の御心に対する従順を貫かれました。建学の精神をキリスト教とする青山学院は、主イエスこそ真の創設者であると信じています。そして学び舎を巣立って行く若者たちが、主イエスを模範とし、「サーバント・リーダー」として神と人に仕え、さらに「地の塩、世の光」(マタイ 5 章)として、社会に貢献することを祈り願っています。